

勝間田旋風

千代のみ無傷

紙相撲新聞

第159回本場所
初日～三日目

編集・発行
日本紙相撲協会

若ノ嶋大神楽2敗、春ノ翔3連敗

勝間田勢攻略が勝ち残りのカギに

〔第百五十九回本場所初日～三日目〕

先場所の興奮も冷め止まぬ中、早くも第159回本場所（令和5年夏場所）が5月21日に開催され、三日目までを行った。

今場所は、先場所に熾烈な優勝争いを演じた若ノ嶋、千代鈴、春ノ翔の3横綱と大関大神楽が再び先場所と同じような優勝争いで場所を盛り上げるのかに注目が集まる。

関脇小結は鹿富士以外総入替えとなり、9勝をあげた烏帽子岳が再開脇に

東西の小結には四季嶋、月山の勝間田勢が再昇進した。さらに前頭上位は、横綱大関との対戦の可能性のある三枚目までの6人の内、勝間田勢が4人もひしめく番付となり、優勝の鍵を握る存在となりそうだ。

また、新入幕は桃乃洲ひとり。桃山部屋としては第113回の太刀原以来46場所振りの嬉しい昇進となった。

楽しみと緊張感が交差する初日だったが、桐壺親方が欠席となり、春ノ翔の土俵入りの介添えを勝間田親方が代行した。

しかし、桐壺親方が欠席したのが災いしたのか、先場所若ノ嶋と10勝1敗の相星で

優勝決定戦に臨んだ春ノ翔がまさかの3連敗。若ノ嶋も初日は勝ったものの二日目から連敗。大神楽も初日、二日目と連敗。千代鈴ただ一人3連勝とした。

先場所は3横綱1大関が揃って3連勝としたのと打って変わって、三日目までの成績が5勝7敗と大波乱の幕開けとなった。しかも7敗の内、勝間田勢相手に6敗と、上位にひしめく勝間田勢に対して散々な結果となった。

また、鹿富士、烏帽子岳の両関脇も1勝2敗のスタートで、上位陣受難の3日間となった。

2場所振りに東の横綱に返り咲いた若ノ嶋は初の連覇に意欲十分で臨んだ。

初日は返り小結の月山に出足鋭く前に出て、最後は左を出される形になりながらも出足の勢いで寄り切って白星発進した。

しかし、二日目にこれも返り小結の四季嶋に左を差され、最後は押し倒して痛い黒星を喫する



↑千代鈴は落ち着いた取り口で朱雀湖、鉄甲、月山といった勝間田勢を撃破。勝間田旋風も千代鈴には通じないようだ。

↓小結に復帰した四季嶋は初日春翔、二日目若嶋と東西横綱を連破。旋風の中心となっている。



「先場所に比べて、若ノ嶋はなんか軽い感じがしますね。」と勝間田親方。確かに先場所と違ってどっしりとした相撲が見られなかった。四日目からの巻き返し

うまさかの滑り出しとなった。



朱雀湖○(押し倒し)●若ノ嶋



若ノ嶋○(寄り切り)●月山

に期待したい。
先場所10勝をあげながら惜しくも決定戦で若ノ嶋に敗れ、横綱としての初優勝を逸した春ノ翔。今場所こそと臨んだ場所だったが、初日、四季嶋に立合いから一方的に寄せられてそのまま土俵を割るという信じられない相撲で黒星スタートとなった。



四季嶋○(寄り切り)●春ノ翔



月山○(押し倒し)●春ノ翔

二日目から立て直したいところだった。月山に押し倒され、三日目はこれまで2敗と合目口の悪い鉄甲に上手投げで敗れるという最悪の結果となった。「休場か？」という声も出ていたが、桐壺親方がどう決断するのか。



鉄甲○(寄り切り)●春ノ翔

先場所はただ一人9連勝と安定した相撲で優勝争いの先頭に立った千代鈴だったが、春ノ翔、若ノ嶋の先輩横綱に連敗して惜しくも優勝がならなかった。新横綱としての優勝と3連覇がかかっていただけに、悔しさで千秋楽の晩は寝られなかったそうだ。

今場所こそと臨んだ初日は朱雀湖を危なげなく寄り切り、二日目は鉄甲、三日目は月山を万全の相撲で下して3連勝とした。横綱大関が総崩れの中にあって、ひとり横綱相撲を見せた。